

寫眞を撮しといたから、出来たら取りに行つて下さい。と頼んだ。

十七の娘と、十八の女は、汽車が来る少し前に、

『さよなら』

『お大事になさいます』と言ひながら、甘酒屋の方へ引き返して、此方を顧り返つてゐた。

僕は少年に東京驛までの切符を買はして、無常を感じながら、何やら饒舌り散らして、少年と新橋で別れて、東京驛で降りた。

早稲田の終點から、大學の横の坂を上ると、電信柱に號外がはり付けてある。

九州地方の大地震で、何時關東地方の激震が来るか知れない。

僕は自分の足の下の地がゆらぐ様に思つて、非常な畏怖の念に襲はれた。

大泉はリスのやうだと辻潤が言つた事がある。

冬の夜の九時過ぎだつたから、黒石は風邪氣だと言つてねてゐた。

僕は二宮で書いた詩を讀んで聞かした。

『大分今までのものと違つてゐますね』黒石は言つた。